授業科目名・形態	ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	駒ヶ嶺　裕子	実務経験の有無	無	開講期	3年後期
科目ナンバリング	W4-3019p				

【授業の主題】

1. 精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。
2. 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。
3. 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。

【到達目標】

以下の項目について実践的に理解することができる。

1. 多職種連携・多機関連携（チームアプ ローチ）
2. ソーシャルアドミニストレーションの展開方法、コミュニティワーク
3. 関連分野における精神保健福祉士の実践展開

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション・精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義と地域包括ケアシステム
第 2 回　 コミュニティ・メンタルヘルスにおける課題とそのアプローチ
第 3 回　 ソーシャルアクション（1）精神保健福祉領域における歴史、理論的背景
第 4 回　 ソーシャルアクション（2）個別から地域における体制整備と政策展開
第 5 回　 ソーシャルアクションと実践事例（1）地域移行・地域定着に関わる展開
第 6 回　 ソーシャルアクションと実践事例（2）施設コンフリクト問題と地域住民への啓発活動
第 7 回　 多職種連携・多機関連携（1）精神保健福祉領域における連携のニーズと意義
第 8 回　 多職種連携・多機関連携（2）知識と技術（チームビルディング、リーダーシップ、ファシリテーション）
第 9 回　 チームアプローチの実際
第 10 回　精神保健福祉分野におけるソーシャルアドミニストレーション
第 11 回　学校・教育分野における精神保健福祉士の実践
第 12 回　産業分野における精神保健福祉士の実践
第 13 回　司法分野における精神保健福祉士の実践
第 14 回　災害支援活動における精神保健福祉士の実践
第 15 回　地域包括ケアシステム時代の精神保健福祉士の役割・講義のまとめ

【授業実施方法】

講義形式で行う。レジュメを配布し、パワーポイントを用い、授業展開する。また、適宜、新聞記事や映像資料等を適宜使用し、双方向性授業を図る。

【事前・事後学習】

教科書、レジュメ、ワークシート、試験対策等を含め、毎回2時間の予習及び2時間の復習を行うこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉の原理Ⅰ・Ⅱ、ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ、精神保健福祉制度論、

【教科書等】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編：最新・精神保健福祉士養成講座 6　『ソーシャルワークの理論と方法』」［精神専門］中央法規　2021

【参考文献】

特になし。テキスト以外で必要なものは授業で紹介する。

【成績評価方法】

成績評価は試験または期末レポート（90%）、課題提出や授業への取り組み姿勢（10%）で総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

履修学生は予習と復習を行うことで科目の理解度を深めること。なお、「ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅰ」と「ソーシャルワークの理論と方法（専門）Ⅱ」の科目は同じテキストを使用する。